

宿合及冬札
報告書 99
報



信州大学山岳会 in 五竜

はじめに

合宿のような形式で山に登る場合、体力、技術に代表される純粋な登山能力とはほかに別の能力が要求される。それは言葉では非常に表現しがたいものである。「能力」の枠組みでそれを想定することがそもそもの間違いなのかもしれない。仮にそれを「能力」としても目に見えて明らかなたくいのものでないことは確かだ。それは「能力」よりもむしろ広く「人間性」に集約されるものであり、その一部分に過ぎないと見るべきなのかもしれない。私が今回リーダーとしてみんなに要求したこともそこに含まれるものだ。たった1回限りの合宿で区切りのつくたくいの要求ではなかったはずである。みんなの声を改めて報告書にすることでこれにより何かが変わるかもしれない。そしてわれわれの活動がただの自己満足に収まらないこともわかるはずだ。普段とたいして変わり映えしない内容かもしれないが、目前の冬合宿、その先に続く活動にこの報告書が糧となることを願う。

文責 岸本

Contents

- ・行動記録
- ・各係りから
- ・個人の反省、感想、意見



・ 行動記録

プレ冬合宿 (Pre winter Camp in Mt. Goryu)

Date : 11/26~30 (3+2)

Location : 五龍岳・遠見尾根

11/26

6:00	Box 集合
7:30	五龍遠見スキー場着
8:40	同 発
12:15	西遠見 T.S 着

冬山初体験。冬もなかなかいいものだ。それにしても雪がすごい。これほどウンコに苦勞したことは無い。ウンウン… (エグ)

11/27

5:00	起床
7:10	西遠見 T.S 発
8:51	白岳
10:05	G0
11:48	西遠見 T.S 着

今日は汗をかかず快適。冬山の美しさにしばし見とれる。(中川)

雪の上を歩くのは楽しい。明日は朝日を見たい。(石岡)

11/28

4:00	起床
5:55	西遠見 T.S 発
8:31	地蔵の頭
9:37	五龍遠見スキー場

久々に見た雪。さあやっとな冬がやってきた。(吾郎)

会計、渉外 反省

98S6024H

横山 勝江

～会計～

収入 10000円 × 15人 = 15万円

支出 91390円

残金 58610円

この残金は冬合宿に持ち込します。
皆さん 合宿費はしっかり払ってください。

～渉外～

車を出して下さった皆さんありがとうございます。
スタッドレスタイヤに替えるのを皆で手伝ってやるの良かった
と思います。皆協力してあげてください。

フレ冬 エッセンの反省

担当 梶原

- ・量が多すぎた。(思う存分やらせて頂いたので)
- ・テニ場に着いてからの指示が足りなかった。
- ・レシヨンの買う量の目安は、

100円SHOPの がこ 1 → 約20食分
ちょっと少ないかも...

- ・レシヨンにかムは禁止!!
- ・食糧袋、調味料袋には、テント番号をつける

装備系の反省

松野 林太郎

○反省点

・テント4つは多い。冬合宿は絶対に3つで行く。テントが1つ増えることにより、火器と生活用具の数は増えてしまうのだ。

・自ガスの量を突働・予備分共に同じにしてしまった。軽量化を針るためには、予備分を減らすべきだ。

・ツェルトと間違えてエスペースのフライを持っていた。人に任せて準備したものは、もう一回自分の目で確かめなければいけない。

・竹ポール、短かすぎた。冬合宿では2種類ぐらいの長さのポールを作りたい。布のつけ方の工夫も必要。

・メインギールはいろいろないのでは……冬合宿では装備にいけないつもりです。

・ホルト・ジーンズセットはいろいろない。

・カラビナは軽いもの。安環を浮かせて数を減らす。

・はしは、割りばしの方がよいのでは……

・スポンジは予備が必要消費激しい。

・予備分は、団装袋を作ってし、かりと管理する。

・昨年の反省を生かしていない。

・ビーコン・テルモスの事前の準備は自分が責任を持つ。

○感想

・昨年の装備の良い反省があるにも関わらず、完全に生かしていなかった。プレ冬だからという甘えが自分の中にあつたのかもしれない。この合宿で装備系というものがなんとなくわかってきたので冬合宿では納得のいく装備にしたい。

・消費 ヌタ 12、3本

自ガス 2.4ℓ

・紛失 竹ポール 2本

各自の感想・反省・意見

プレ冬合宿の反省と感想

一年 by 野川謙介

反省

本当にみんなに迷惑かけっぱなしの合宿でした。どうもすみません。準備にはこないは火器は燃やすはと本当に迷惑かけっぱなでした。面目無いです。トホホ…

たたけばたたくほど埃じゃないけど反省の出てる合宿でした。まず体力。朝のランニングで体力はアップしていたつもりでしたが、とんでもない。これほど山登りがつらいと思っただけではありませんでした。夏山になれていたせいからちょっと冬山を甘く見がちだったと思います。荷物の重みや寒さ、そしてラッセルで想像以上に体力の消耗が激しかったです。

次にエッセン。ガス入れた後は必ず確認！確認を怠るとテントを燃やす羽目になります。冬山でテントが無いとちょっと寒い、かな。

あとは撤収前の忙しい時間帯をすばやく動けるようにしたい。そのためには前日から荷物の整理整頓はするべきだし、朝何をすれば良いかななどのイメージトレーニングを寝前にしておくと良い。パッキングはしっかり入れないと致命的。冬山でバテるとどうなるかわからない。

これらの反省を生かして冬合宿を成功させたいと思っています。

感想

久々の雪山でした。過去何年（何十年？）はずっと滑り降りるだけのものでしたが、歩いてみるとまた違うというのが良くわかりました。ラッセルは自分の思い通りに体が動かず大変でした。本番ではもっとがんばりたいです。短いですが今回はこれで終わりにしたいと思います。冬合宿終了後にまたまとめて感想を述べたいと思います。

プレ冬の反省

一年 中村圭一

個人の改善点は言うまでもなく体力である。体力のなさは1、2、3、4、5に体力。5に体力と言われた事が痛いほど分かった。それが充分出来ていない限り、他の個人の改善点など見えてくるわけもなく、また、全体の改善点など言う資格など全くないと思える。

感想

冬山。その言葉から今まで想像してきてことは、死、危険、力、極めることのできる自然界 最大の存在 というものであった。しかし、一種 あこがれの言葉でもあった。その冬山に 初めて 挑んだ。厳冬期前とはいえ、その姿、力を 少しばかり垣間見た気がする。入山日と下山日 下った 2日の差があるのに、その間の降雪で、^氷 状況は全く違うものとはなっていた。さらに冬にはるにつれ、1つの低気圧、1日の降雪で、その状況は劇的な変化を遂、豪雪、ラッセル、強風、雪崩と1日 我々の前に立ちほだかるのであろう。一方、東の間の晴れ間に見えるその姿は夏山と全く違う姿であった。口にはほほほい 見てもはしゃがむ姿である。話しに聞く 朝焼け、夕焼けに照らされた冬山を見てみたいものだ。冬合宿に期待と不安を挟んで、心技体 いずれも欠くこともなく 臨みたい。

反省・改善点

個人としては 何となくとも 基礎体力アップである。これはかなりは 自分自身で 何とかなるしかない。下、心は余裕を持ちつつも 全ての行動準備を早める 必要がある。

全体としては、レーションの買出しの際、もと 缶コップや国産物を 増やせばよかった。これは 初めてのことは言え、1年生の準備不足は明らかであり、今後は互いに協力し合うのも 如きを 最小限にあてえる一つの手段である。最後に、出発前夜にビーコンが1台不足してはたか、幸い 出発前に揃ったから良かったものの、信大山岳会がビーコンとこの重さを置いて いるかわからなかった。その都合にはおいて、1人待機という形を取るのも 崖状態の1つは ほかではどうするか。

1年 石岡春彦

感想

最も印象に残ったのは ざくざく積もっていく雪だった。降る雪は眺めていても飽くことがない。それによって雪化粧していき稜線・野山・木々は美しい。しかしそれは同時に恐怖でもある。滑落を招く、道をかき消す、テントをつぶす、雪崩を呼ぶ……。雪とうまくつきあっていくことができれば冬山を楽しく歩くことができるところだろう。今回の合宿ではそのための技術を目にした。それらを一つずつ吸収していかなければならない。

五龍岳山頂に立つなかつたのは勿論残念だった。冬山のイントロダクションとして じりあはすは様々なことを体で感じることであった興味深い合宿だった。

改善点

初めての冬山経験者だけに 全体の問題点を挙げることは難しい。

- ・トイレに苦労した。それら中地雷源だらけになってしまからた。広範囲に渡ってトイレが存在するのは危険じゃないだろうか。どうしてもいいと言えは どうしてもいいのだが。
- ・雪崩斜面を通るのは怖い。もっと注意深くおたいと思おう。
- ・ワカン ↔ アイゼンのつけがえは もっと頻繁にあるものだと思っていたのだが どうだろう。

ﾌﾟﾚ冬合宿の反省と感想

二年 横山 輝生

個人的には、正直に言うと、ﾌﾟﾚ冬は行く前からちよと恐かった。

冬山の経路がなくてどこまでできるかが不安だったし、

2日目の行動はちよときん張した。

たけこ合宿を終えてみると自分にはいい経路発見になって、

自分なりに改善点も色々見つかリ、冬合宿につながるような合宿にできたと思う。

会全体の中での反省は、合宿の雰囲気を作るのは自分達1人1人なんだというのを再認識したことで、

1人1人の土気みたいなのが会全体に影響するのを考えたりモクハーションを今以上にあげて冬合宿に望みたし。

冬型の天候の面白さ(恐しさ?)も体験できたし、

「雪の多いﾌﾟﾚ冬」も遠く一体何しにきたんだ、というわけの分らんものにならなくて良かった。

ﾌﾟﾚ冬の反省と感想

～反省～

。一年生への指示などについて、

他の上級生に甘えている部分があった。

。下山時に、気の中るみがあった。

～感想～

二年連続の敗退であったが、悪い条件がそろっていたなりにG.Oに行けたことは、価値のあることだと思う。

来年こそは、成エカマセたいものですね…。

二年 梶原 恵

～反省～

最大の反省は緊張感に欠けたということであろう。これは私自身はもちろ、会全体としてもそうだったように思う。これは、例えば時間を大幅におくせるとか、危険地帯で注意しないとかが問題ではない。もっと根本的なもの、雰囲気みたいなものに、緊張感が欠けていたのだと思う。これは準備の段階から見え隠れしている。1年生は全くの準備不足。装備はお話にならないと言われてもおかしくない。そして体力不足。冬山が今までの山と違うということもわからなすぎではないか。意識の面においても、感情を表に出す必要はないと思うが、その分働かなければ合宿に行く資格はない(もちろん感情は出しても働かぬかは意味はない)。何も言わなくていいから働けるところが最大限働こう。

そんな1年生をふたけた雰囲気のままにさせる上級生も上級生だ(私も含め)。先に述べたように、そういう雰囲気が直接危険に影響を及ぼすというわけではない。むしろ危険地帯は最大限注意を払っているように思う。

私の言うのは精神論のようかと思われるが、合宿特に冬山はピンとはりつめた空気を保っていなければならぬと、決してかたかたしというわけではなく、怒る所で怒ったり、集中する所で集中したり、つまりメリハリがほしいのだ。それが感じられなかったのは、メンバーの性格か、久しぶりの冬山だからか、気象条件がまじしくなかったからか...。ただ言えるのは今度の冬合宿ではそんな雰囲気ではやってゆけないということだ。はっきり言って今回のフシ冬合宿は全く厳しくなった。1年生は今回だけで「これが冬山だ」と思わないでほしい。いろいろな面で冬合宿はもっとつらい。もう一つ、先ほども直接危険を及ぼすわけではない、危険地帯は最大限注意を払っていると書いたが、実際皆の心の中にどれだけの危険意識があるのかはわからない。ここ数年SACでは大きな事故はない。しかし逆にそのことで危険に対する意識が低下していないだろうか。実際問題、事故のふさは体験してみなければわからない。しかし、だからといって成り行きに身をまかせるのは一番あてにならないことだ。事故が原因でいられることが平和のようであって、逆に大きな危険を自ら引き寄せることはないよう、今一度ここで会全体を引きしめて、冬合宿に臨むべきであろう。

(最近の本チャンでの墜落や立岩での落石、テシ内の荒土など、その簡単な処理できるものではない)

～感想～

というわけで、雪のないまま向かった五竜岳はなんと冬山らしくなっていて、ホツヒはしたものの、不完全燃焼、一酸化炭素中毒といった面持ちです。冬合宿は厳し(自然条件と会の雰囲気)と楽しさの際立つ良い山行にしましょう。今から楽しみです。カンバレ1年生、もっと良い経験になることでしょう。そして2000年元旦の御来光をぜひ拝みたい～いんおは!

プレゼンから

3月 大木 BOND

先づ、今回のプレゼンは今年度初の合宿参加という意識があった。「自分たちの役割」というものを意識し、行動しようと思っていた。

山岳会という組織の中ではそれが大切になると思う。会全体の実力が上がって来今、一人一人を良く考え、冬合宿として次の学年に備えてほしい。

一年生に関して、とりあえずもっと山に登りこんでほしい。「山に登っている奴が一番強い」この言葉は100%正しい。一年生の間でもその差は感じているはずだ。感じていない奴は冬山は登らない方がよっぽどの為である。また、マイペースなのはいいけど、私見を言わせていただくと、はきりいってたど場が読めていないだけである。時には失礼な行動もあり、登山以前の問題として受け止めてほしい。

二年生はもっと全体をみるようになってほしい。臨機応変に状況に対応してほしい。樹林帯での指示をそのまま後線で従わなくても困るし、いちいち言われません。これは個々のこれまでの経験に自信を持ち、積極的に行動してほしい。

以上

'99, 12, 4

70L冬 感想と反省 晴弘次

<反省>

60Lの登山でバテた。自分の体調を管理できていなかった。周りの人間が力をひいてる中、~~どうも~~もうろってしまっただけで合宿ではつらいよえより注意する。

またバテた事で1年のフォローができなかった。自分がどうしようもなくなくなる状況になる前に、上級生に声をかけて、フォローを代わってもらうべきだった。一番の反省である。

- 。トレスをはずし雪庇を壊すとこだった。後ろの2人がいなければかなり危険な行為であった。眼鏡をしてるとどうしても曇る、しかし、くもったまは壊すと今回の様な状況になる。冬合宿までにはどうにかする。
- 。下山の際全体目的に気が緩んでた気がする。俺も例外ではなかった。ルーフを先頭にまかせていて、1度間違った。ルーフは全員気をつかうべきだ。1年も今からルーフの技術者を身につけるよう心がけよう。
- 。一年のガス入れのミス。冬山では特に、燃料は重要である。ガスの取り扱いは確実にすること、今回のミスを2度と起こさないように。

<感想>

本当にスベの冬山だった。もう冬が来たのかという思いだった。70L冬としては有意義なものだったと思う。しかし、反省点は多い。自分も含めて、この反省を冬合宿に生かして行こう。

毎年思う事だが、フシ冬で計画通りにトレースを残す事は難しい。冬という気象条件と、日程の短さ、全員参加という型式では仕方の無い事なのかもしれないが。

今回、ピークに行けなかった事、fixも出せなかった事等、少し残念な面も多かった気がする。ただ、収穫の多い合宿でもあった。山岳会としては、1年生は冬山の零団気が少しでも分かったのでは無いだろうか。又、2年生の1年生を見る時の目つき、3年生の全体をうまく動かそうとする姿勢等を見ていると、今回の合宿のリーダーを務めた岸本が計画書に記した言葉も各自が真摯に受け止めていた様に思えた。

これからすぐに冬合宿となる。長く、精神的にもきつい合宿になるだろう。長ければ長い程(日数か)、各自に余裕が無くなる程、基礎体力か、1年間くり返してきた技術、生活、そして各学業各個人のもつ視点といったものが、大きな競争味を持つ。これから冬合宿をむかえるにあたり、各自が「自分は今まで何をやってきたのか」を振り返ってほしい。意識してイメージを描く事が、後に大きな実を結ぶ事になる。

最後に1年生に注意。短い期間しか残っていないけれど、基礎体力かの向上に努めましょう。あと、各自が体調管理をしっかりして、合宿にのぞむ事。大学生というのは特別な自由を与えられた「大人の」集団だという事をこれから先も忘れないでいてほしい。

反省と感想

四年 麦谷

ブレ冬合宿というものが、3年がリーダーを勤めるということを考えれば当然といえば当然であるが、今回の合宿は3年生の存在感が一層濃く感じられた(まあ彼らの性格的なところもあるが)。それとは反対に我々4年生は、3年生がたいのこを率先して行ってくれるため、言動も少なくなり影が薄くなってしまった。うれしいやら悲しいやらである(冬合宿を見てろよ)。同じように1,2年生は3年生の影に押され放しである。2年生はもっと存在をアピールする場面があつていいと思う。1年生は言われてやるだけでなく、もう少し自分で考えて行動するようになるべきである。

1972年のこと。

野田 聡

私の合宿が終了した。1つの区切りが終わり、
新たな幕が始まった。

新たな幕に向けての合宿にしては少々の不満
に終わった。下界の余裕の無い精神状態を
持ち込んでしまった。私には子供だ。

結果として小言が増えた。理想と
しては小言で修正するのではなく、角が
奪う。というのがあつたろう。

荷重としては1972年より本番前より覚悟
し、他人に迷惑を掛けないで平気にして子供
が見受けられたことがある。が、しかし、それが注意
ではなく、小言、であつたのは誤りである。
勘を叩く。

そう一つの反省としては天啓の平想がはされた
ことだ。同じ誤りの二度は繰り返さない。

全体を見ていて思ったことを少しづつづつ書こう。

まず養生。体力が無さすぎる。今日の標高
旧の行程が短い山行において、しかも下山時に
先頃のラッセルに比べて中々ないのではお話しに
ならない。体力あつてこそ山を楽しまることが出来る。
山を楽しまるために、下界でもう少し養生しておこう。

二年生、もっと発言しよう。同輩や後輩、時には先輩に、
そして最後の自分自身に同じ問いを忘れないように。
そろそろここで自分に欠けているのは何か、わが子株に在るの
ではないか、少なくともその助けにはなるはずだ。

二年生、見ている非常に安心出来た。頼もしかった。
ただ、自分と同じものを他人にも要求する面がある。
少し強い株にも思う。多様性と長期間、何れも
下りの為か上にはほぼ同じな発言出来ない需国製作
ノを見指してほしい。若輩の発言が成されてこそ組織
は活性化すると思ふ。

一、二年生は上級生へのトラストレーションを留めず前
に恐れず自分をぶつけてくれ。三、四年はそれを待た
望んでいよう。

最後に俺の大学生活の目標を書き、最後に押しつけて
近づきように宣言しよう。

・自分に笑顔を持つことが出来なければ他人を幸せに
する事は出来なない。 アネ・フランク

・青春とはやがて来た子へ「船出」への向うへの「謀り」の
時代」なのだ。そこにおいて最も大切なのは「何をか求め
ん」の意思である。それを欠く者は当然の帰結として
「船出の日」は訪れてこない。彼を待っているのは状況と
情性に流された在り方の人生である。 立花隆

フシ冬 反省と感想 中島辰哉

(反省) {

- ・ 山から遠ざかっていたため、山に入ってから順応力の少なさを感じた。
- ・ 体力不足

これから冬合宿に向けて、最善の努力をしようと思う。

(感想)

- ・ スリ振りの山はよかった。Goまでだったが、アイゼンとワカンのおかげで体験できてよかったのではと思う。
- ・ 入山日の雪のけなさに驚いた。

以上

年末ジャンボクイズ

問題: 写真の彼(横山ジャンボ)に何が起きたのか以下の選択肢から選んで回答せよ。



- ①何か恐ろしいものを見た。
- ②忘れ物を思い出した。
- ③屁をするために気張った。
- ④普段からこんなである。

* 回答は2000年、次回報告書で!!

印刷: 松本
編集: 岸本
表紙: エグ中村